

豊かな人間性を育み、学びが好きな生徒の育成
～道徳性の育成と基礎学力の定着に基づく深い学びをめざして～

下関市立長府中学校

- ① 本校では、「考え、議論する道徳」に向けた授業改善の取組として、「道徳的価値に沿った授業の立案」「端末利用の工夫」「発問の工夫」の3つを重点的に行った。



- ② 第1学年 お互いを認め合う 「自分だけ『余り』になってしまう……」
第2学年 初心に戻る 「初心」

- ③ ア 道徳科の授業改善のポイント

「生徒の思考を予想し、それに沿った発問」「考える必然性、切実感のある発問」「自由な思考を促す発問」「物事を多面的・多角的に考える発問」を意識し、生徒の心が葛藤したり、考えが深まったり、ほかの考えを受け入れたりすることで、自己の生き方についての考えを深める学習になるよう工夫すること。

- イ 道徳教育の充実のポイント

「一人一台端末を利用した意見交流」

ロイロノート・スクールを積極的に用いる。教師が個々の意見を取り上げやすく、生徒が自分の意見を出しやすいので、感染症対策を行いながら、意見を交流させる。

「考え、議論する道徳」の授業づくり

～「やまぐちっ子の心を育む道徳教育」プロジェクト

2年次推進校の実践～

山口県教育庁義務教育課 令和5年3月

山口県教育委員会では、学習指導要領の趣旨並びに、児童生徒、学校、家庭及び地域等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育の推進と道徳科の授業についての実践研究を行い、その成果を普及することをねらい、「やまぐちっ子の心を育む道徳教育」プロジェクトを実施しています。

このリーフレットでは、本プロジェクトの2年次推進校（令和3・4年度指定）の実践事例を紹介しています。指導案等の資料は、義務教育課のHPに掲載していますので、今後の道徳教育の推進と道徳科の授業づくりの参考としてください。

【各学校の実践事例の見方】

「研究主題」 学校名

- ①研究概要：1年間の取組の概要紹介

- ②道徳セミナーにおける公開授業

- ③2年間の研究を通して、ア 道徳科の授業改善 イ 道徳教育の充実 のために必要と思われるポイント



義務教育課HP



「＜対話＞のある道徳科授業づくり」

～多面的・多角的な見方や考え方ができる発問の工夫を通して～

長門市立油谷小学校

- ① 本校では、コミュニティ・スクールのよさを生かした道徳教育の充実に努めている。そこで、地域連携カリキュラムと別業のブラッシュアップや地域と共に創る道徳授業に取り組んだ。さらに、道徳科の授業では、ねらいに迫るために、授業のゴールイメージと児童から引き出したい言葉をしっかりとち、＜対話＞の鍵となる発問を精選していった。また、＜対話＞の土台となる「よさを認めアクティブに学ぶ」学級づくりに努めた。

- ② 第2学年 だれがするの？ 「わりこみ」

第4学年 思いやりの視野 「心と心のあくしゅ」

第5学年 明るく生きる 「のりづけされた詩」



- ③ ア ねらいに迫るための＜対話＞のある道徳科の授業づくりを行うこと

イ コミュニティ・スクールを基盤とした組織的な取組と保護者・地域の方と共に全教職員で全校児童の心を育むこと

「人間としてよりよく生きようとする力を育てる～考え、議論する授業を通して～」

岩国市立通津中学校

- ① 本校では、「考え、議論する」授業を通して、道徳的価値に対する理解及び自分に対する理解を深めることを目標にした。授業を構成する要素（カリキュラム、発問、解釈、教材・授業構成・展開、学習評価）に対する12の小仮説を基に、道徳科の研究に取り組んだ。平成31年度から令和3年度にかけて、検定教科書に記載されている全ての資料の指導案を作成したり、各学年が相互に授業を参観し合ったりして、授業力の向上に努めた。

- ② 第1学年 伝統を守る 「奈良筆に生きる」

社会の中の思いやり 「バスと赤ちゃん」

第2学年 家族のきずな 「きいちゃん」

第3学年 夢の実現 「iPS細胞で難病を治したい」



- ③ ア 道徳科の授業改善のポイント

登場人物の心情の読み取りを促す問いから脱却（道徳的価値について掘り下げる発問、「価値、人間論、社会論レベル」の発問づくり）したり、経験の少ない学習者の考えが行き詰まった際に、授業者の側から適切な選択肢を提示したりすることで「考えや議論」を深める。

イ 道徳教育の充実のポイント

道徳科以外の教科や領域において積極的に道徳教育を展開する。道徳ノートを活用して、授業を通して学んだことや考えたこと、疑問に思ったことなどを書き込み、自分の生活や生き方について振り返らせる。また、班員と共有することで他人の思いや考えに触れ、内容や価値への理解を深めさせることができる。

ふるさとを愛し、幸せな未来を拓く生徒の育成
3校統合による新しいつながりを大切に、互いに尊重し合う態度を育む道徳科の授業の実践
周防大島町立周防大島中学校

- ① 本校では、「発問の工夫」「話し合い活動の充実」の2つを重点的に取り組んだ。「発問の工夫」については、授業の中で扱う道徳的諸価値について様々な面から分析し、道徳的諸価値に迫る中心発問づくりに励んだ。「話し合い活動の充実」については、話し合いを円滑に進めるための思考チャートの活用やコの字型やトリオ学習などの多様な座席配置について工夫し、授業の中で実践した。



- ② 第1学年 よりよいクラス活動を目指して 「全校一を目指して」
第2学年 みんなちがって、みんないい 「遠足で学んだこと」
第3学年 思いやりと感謝の広がり 「一冊の漫画雑誌」



- ③ ア 授業のねらいに迫るための必然性をもった発問をつくとともに、その発問を生かすのに最適な思考ツールや板書、座席配置を構想すること。
イ 研究授業、研修職員会議、道徳通信などを活用することで、互いの道徳科の授業の実践や道徳教育における情報を共有し、全教員で道徳教育の充実に励むこと。

「互いの価値観を高め合う児童の育成
～考えをつなぎ合い、道徳的価値に迫る授業づくり～」

防府市立新田小学校

- ① 昨年度までの「ねらいの焦点化」「発問構成」「板書」に加え、「考えをつなぎ合う支援」に着目し研修を進めた。
② 第2学年 勇気をもって 「おれたものさし」
第3学年 誰に対しても公平に 「みさきさんのえがお」
第6学年 つなぐためには 「新しい日本～龍馬の心」
たんぽぽ3組（特別支援学級） こまっているひとにしんせつに 「ほくのはな さいたけど」



- ③ ア 扱う道徳的価値についての深い理解や教材の特性、児童の発達段階や実態及び教師の願いを踏まえて、ねらいを焦点化すること
イ 重点内容項目の周知（教員及び児童）とそれに合わせた行事や活動を設定すること。

「人としてよりよく生きようとする「かつま」っ子の育成」
～納得や発見で変容を促す道徳科の授業と「かつま」っ子カードの活用～

周南市立勝間小学校

- ① 本校では、「かつま」っ子カード（めざすべき児童像と重点内容項目を繋げて目標とし、別葉に記載している学習や学校行事などでの経験を振り返りながら成長の実感を促すもの）の活用と変容を促すための3つの視点（①「自分事として捉える導入の工夫」②「価値に迫る発問と見える化による話し合いの活性化」③「変容の自覚と自分の生き方につなげる終末の工夫」）を意識した授業づくりに重点的に取り組んだ。

- ② 第2学年 みんなが使うもの 「きいろいベンチ」
第4学年 みんなの場所を 「日曜日のパーベキュー」
第5学年 役割を果たす 「かれてしまったヒマワリ」



- ③ ア 自分事として捉えるために導入で問いをもたせ、授業をとおして得た解を「これからの生き方に活かしていきたい。」という思いをもたせるような授業をつくること。
イ めざすべき児童像（本校の重点内容項目とめざすべき児童像を繋げ、学級目標に反映させたもの）に向かって日々振り返りを行いながら心の成長を実感していくような取組を全校統一して行うこと。

「自己を見つめ、他者とのかかわりの中で考えを広げ深める子どもの育成
～主体的・対話的に学ぶ道徳科の授業を通して～」

宇部市立厚南小学校

- ① 本校では、「道徳科の授業における指導法の工夫（3つの視点）」「道徳科における評価方法の工夫（3つの観点による振り返り・“学びの手引き”・“授業のねらいシート”）」「道徳的実践を生かした取組（別葉の活用・教室や校内の掲示）」の3つを重点的に取り組んだ。

- ② 第1学年 きもちのつたわるあいさつ 「わすれていること、なあい」
第4学年 みんなが気持ちよく過ごすために 「雨のバスていりゅう所で」
第6学年 真の友情とは 「ロレンソの友達」



- ③ ア 3つの視点（視点1：ねらいに迫る発問づくり ・視点2：自己を見つめ直すための終末部の時間の確保 ・視点3：考えを深めるための話し合いの質の向上）に沿って授業をつくること。
イ 別葉を活用し、他教科や特別活動等の学習を道徳科で発展させることを意識して指導を行うこと。また、道徳科で学んだ大切な考え方を振り返ったり意識したりすることができるように、教室や校内の掲示を作成すること。